

IoT 推進ラボ（先進的モデル事業推進WG）  
IoT 支援委員会（第1回）

議 事 次 第

日 時：平成27年10月30日（金）7：30～9：15

場 所：経済産業省 本館17階第1～3共用会議室

議 事：IoT 推進ラボ規約及び会議の公開等について

IoT 推進ラボ活動方針について

マッチング及び支援スキームについて

【配付資料】

資料1 委員名簿

資料2 IoT 推進ラボ 規約（案）

資料3 会議の公開等について（案）

資料4 IoT 推進ラボの活動方針について

資料5 マッチング及び支援スキームについて

参考資料1 第一回 IoT 推進ラボ・支援委員会への提出意見

（仮屋蘭委員提出資料）

参考資料2 IoT・ビッグデータ・AI を活用したビジネスモデル例

IoT 推進ラボ IoT 支援委員会  
委員名簿

(敬称略)

## &lt;座長&gt;

富山 和彦 株式会社経営共創基盤 代表取締役 CEO

## &lt;委員&gt;

阿部 剛士 インテル株式会社 取締役副社長兼執行役員  
技術開発・製造技術本部 本部長

石黒 不二代 ネットイヤーグループ株式会社 代表取締役社長兼 CEO

ウド・ヴォルツ ボッシュ株式会社 代表取締役社長

金丸 恭文 フューチャーアーキテクト株式会社 代表取締役会長 CEO

カースティン・ガイガー SAP アジアパシフィックジャパン  
上級副社長インダストリーバリューエンジニアリング

仮屋 聡一 一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会 会長

小出 伸一 株式会社セールスフォース・ドットコム 代表取締役会長兼 CEO

島田 太郎 シーメンス株式会社 専務執行役員  
デジタルファクトリー/プロセス&ドライブ事業本部長

鈴木 和洋 シスコシステムズ合同会社 専務執行役員  
シスコ コンサルティング サービス、戦略事業開発 兼  
IoE イノベーションセンター担当

孫 泰蔵 Mistletoe 株式会社 代表取締役社長兼 CEO

高橋 誠 KDDI 株式会社 代表取締役執行役員専務

田中 正明 株式会社三菱東京 UFJ 銀行 上級顧問

辻井 潤一 国立研究開発法人産業技術総合研究所 人工知能研究センター所長

トニー・ブレビンズ Apple Inc. Vice President

長崎 忠雄 アマゾン データ サービス ジャパン株式会社 代表取締役社長

中西 宏明 株式会社日立製作所 執行役会長兼 CEO

夏野 剛 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特別招聘教授

橋本 孝之 日本アイ・ビー・エム株式会社 副会長

原田 達也 東京大学 情報理工学系研究科 教授

ピーター・フィッツジェラルド グーグル株式会社 代表取締役

樋口 泰行 日本マイクロソフト株式会社 代表執行役 会長

ポール・ドーアティ Accenture plc Chief Technology Officer

マルコ・アヌンツィアータ General Electric GEチーフエコノミスト

村井 純 慶應義塾大学 環境情報学部長兼教授

## 先進的モデル事業推進 WG (IoT 推進ラボ) 規約

### (名称)

第1条 本WGの名称は、「IoT 推進ラボ (英文名: IoT Acceleration Lab) (以下「ラボ」という。)」とする。

### (目的)

第2条 ラボは、IoT・ビッグデータ (BD)・人工知能 (AI) 等の技術の発展により、グローバルに、あらゆる分野で、その産業・社会構造が大きく変革しつつあることを踏まえ、IoT 等による新たなビジネスモデルの創出を推進するなど、産官学を挙げて新たな時代の変化に挑戦することを目的とする。

### (事業)

第3条 ラボは前項の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1 IoT・BD・AI 等に関する各種プロジェクトの創出に向けた会員間のマッチング・ネットワーク形成等の推進
- 2 IoT・BD・AI 等に関する各種プロジェクトに対する助言や、当該プロジェクトの実施に必要な規制改革等の提言
- 3 IoT・BD・AI 等に関する各種プロジェクトに対する、官民の支援機関、関係政府機関と連携した資金支援及び規制改革に関する手続等の支援
- 4 その他ラボの目的を達成するために必要な事業

### (会員)

第4条 IoT 推進コンソーシアムの会員であって、ラボの目的及び事業に賛同する者を会員とする。

### (会費)

第5条 IoT 推進コンソーシアム規約第6条に規定に基づく定めに従うこととする。

### (座長)

第6条 ラボには、座長1名を置く。

- 2 座長は、ラボを代表し、事業を総括する。
- 3 座長不在時においては、座長が指名するIoT 支援委員会委員がその業務を代行する。

### (任期)

第7条 座長の任期は原則として2年とする。ただし、再任することができる。

### (報酬)

第8条 座長は無報酬とする。

(IoT 支援委員会)

第 9 条 ラボに IoT 支援委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 2 委員会は、IoT・BD・AI 等に係る知見を有する者であつて、座長により委員として委嘱された委員により構成される。
- 3 委員会は、IoT・BD・AI 等に関する各種プロジェクトに対する助言や、当該プロジェクトの実施に必要な規制改革等の提言のとりまとめ等を行う。
- 4 委員会は、委員の過半数の出席（代理出席、委任状を含む。）をもって成立する。
- 5 委員会の議事は、委員の過半数をもって決するものとし、可否同数の時は、議長の決するところによる。
- 6 委員会は、座長又は座長が指名する委員会委員が招集し、座長又は座長が指名する委員会委員が議長を務めることとし、必要に応じて、書面又は電子メールによる開催とすることができる。

(下部委員会)

第 10 条 委員会の決定に基づき下部委員会を設置することができる。

(知的財産の帰属)

第 11 条 ラボが各支援機関との調整・マッチング等を行った IoT・BD・AI 等に関する各種プロジェクトに係る知的財産については、当該プロジェクトを担う事業者等に帰属する。

(事務局)

第 12 条 ラボの庶務は、一般財団法人日本情報経済社会推進協会が行う。

第 13 条 この規約で定めるものの他、ラボの運営に必要な事項は、委員会で定める。

付則 この規約は、平成 27 年 10 月 30 日より施行する。

## 会議の公開等について（案）

IoT 推進ラボ（先進的モデル事業推進WG）IoT 支援委員会の議事の取扱い等については、以下によるものとする。

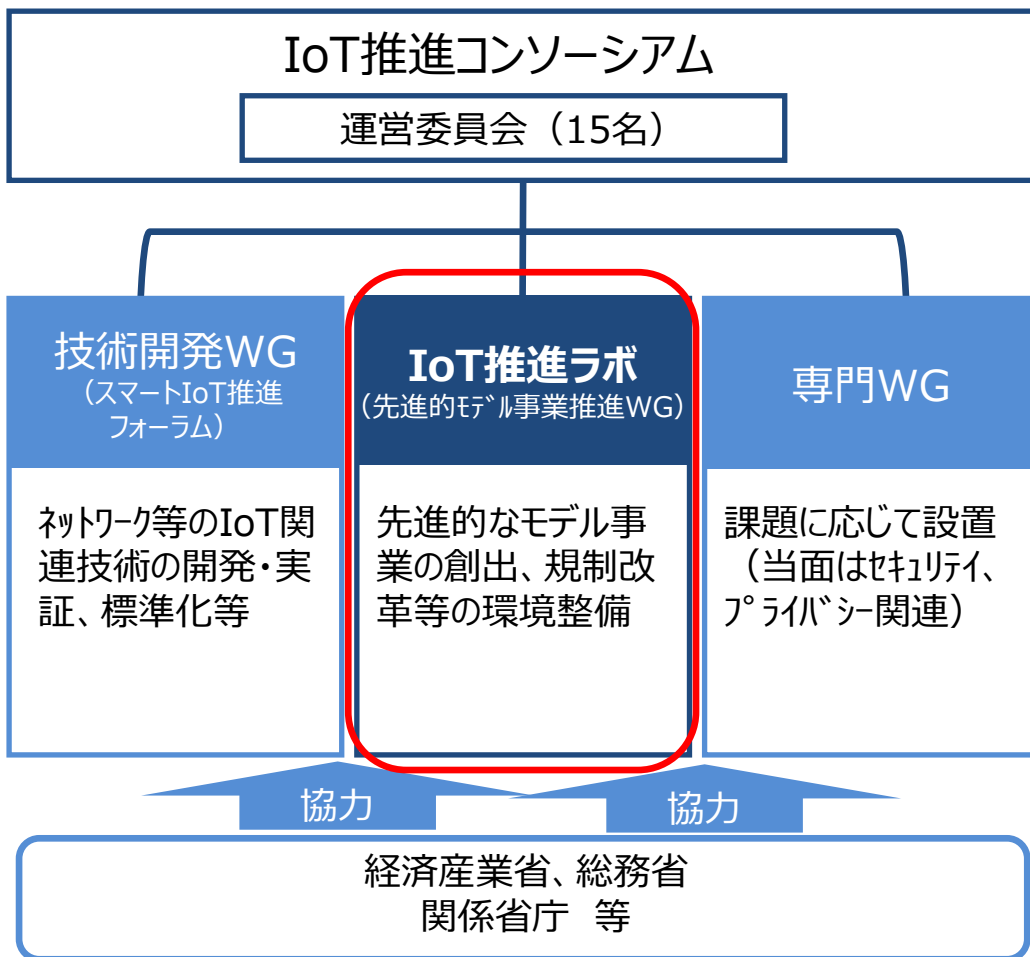
1. 本委員会は、原則として IoT 推進コンソーシアム会員のうち、IoT 推進ラボに参画する会員（以下「会員」という。）に限って公開する。
2. 配布資料は、原則として会員に限って公開する。
3. 議事要旨については、原則として会議終了後 1 週間以内に作成し、会員に限って公開する。
4. 議事録については、原則として会議終了後 1 ヶ月以内に作成し、会員に限って公開する。
5. 会員は、座長の同意を得ずに、会員以外の者に議事の内容、配布資料、議事要旨及び議事録を共有してはならない。
6. 個別の事情に応じて、会議又は資料の公開・非公開の取扱いその他事項についての判断は、座長に一任するものとする。

# IoT推進ラボの活動方針について

2015年10月30日  
IoT推進コンソーシアム  
IoT推進ラボ 事務局  
(先進的モデル事業推進WG事務局)

# IoT推進ラボの概要①～2つのミッション

- IoTを活用した先進的プロジェクトを創出するための産官学の枠組みとして、IoT推進コンソーシアムの下に「IoT推進ラボ」を設立。



参加企業 785社  
参加団体等 139組織 (10月29日現在)

## IoT推進ラボの2つのミッション

- ① 先進的プロジェクトの創出とIoTプラットフォームの発掘・育成
- ② 先進的プロジェクトの社会実装に向けた規制緩和を軸とする環境整備

<テーマ (案) >

製造分野 (※)	モビリティ	医療・健康	公共インフラ・建設	エネルギー
農業	物流・流通	行政	産業保安	教育サービス
金融 (※※)	スマートハウス	観光		

※ロボット革命イニシアティブ協議会と緊密に連携

※※FinTech研究会と緊密に連携

# IoT推進ラボの概要②～ラボ3原則と機能

## ● IoT推進ラボは、

- ラボ3原則（案）に基づき個別のIoTプロジェクトを発掘・選定し、資金・規制の両面から徹底的に支援するとともに、
- 大規模社会実装に向けた規制改革・制度形成等の環境整備を行う。

## IoT支援委員会

…各IoTプロジェクトに対するアドバイス、規制・制度に関する政府提言 等

## 具体的なIoTプロジェクトの創出

### プロジェクト選定の軸

下記要素を有するプロジェクトを優先的に選定・支援

### ラボ3原則（案）

成長性・先導性

波及性（オープン性）

①成果物のオープン性（標準化・社会実装化）  
or ②参加企業のオープン性

社会性（社会課題の解決）

### 支援内容

企業連携を促進し資金・規制両面から集中支援

#### 企業連携支援

業種・企業規模・国内外の垣根を越えた企業連携、プロジェクト組成を促進する場（マッチング等）の提供

#### 資金支援

プロジェクトの性質に応じた官民合同の資金支援  
➢ 事業化に向けた先進的な短期個別プロジェクト  
➢ 社会実装に向けた中期的実証プロジェクト など

#### 規制改革支援

プロジェクトの社会実装に向けて、事業展開の妨げとなる規制の緩和、新たなルール形成等を実施



# マッチング及び支援スキームについて

2015年10月30日

経済産業省 商務情報政策局

# 「IoT推進ラボ」のスキーム全体像

案件組成

IoT推進ラボの会員マッチング等を通じて組成されるプロジェクト

官民で検討・組成されるプロジェクト

企業間で組成されるプロジェクト

企業単独で取り組むプロジェクト

個人で取り組むプロジェクト

登録（申請）

案件選定

## 短期的に実施する個別プロジェクト

## 中期的に実施する大規模プロジェクト

### <アワード型>

社会課題の解決に資するテーマを公募し、最も優れた開発成果に賞金を付与するスキームを検討。

### <TOPPA型>

VC、金融機関、IPA、NEDO、INCJ、CJ機構等の支援機関が、企業からのプレゼン等を踏まえて、①ソフトウェア開発、②ハード試作、物理実証等の支援を検討・実施。

社会実装に向けた必要な規制改革・業界横断的なルール形成等のため、2～3年でF/S・実証を実施。

## <先進プロジェクト選考会議>

- IoT支援委員会メンバーの一部(コアメンバー5名程度)+αで構成
- ラボ3原則に基づき、各スキームの支援案件を選定。

## <ラボ3原則>

①成長性・先導性

②波及性(オープン性※)

③社会性(地域社会課題の解決)

※成果物のオープン性(標準化・社会実装化)or 参加企業のオープン性

<構成員>

コアメンバー+テーマに応じた有識者

①テーマ設定

②審査

<構成員>

コアメンバー+下記の各支援機関の専門家

①事前書面審査

②プレゼン審査

<構成員>

コアメンバー+テーマに応じた有識者

①審査

支援ツール

## 資金支援

NEDO  
(ハード試作、物理実証等)

VC  
(事業化)

CJ機構  
(地域商材の海外展開/イノベーション開拓等)

IPA  
(ソフトウェア開発等)

INCJ  
(事業化)

...

## 規制改革手続き支援

規制改革会議  
(全国的)

国家戦略特区  
(特定地域)

企業実証特例  
(特定事業者)

グレーゾーン  
解消制度  
(特定事業者)

社会実装に向けた必要な規制改革・業界横断的なルール形成等のためのF/S・実証

## 今後のスケジュール（案）

### バッチ①

11月中旬	先進プロジェクト選考会議コアメンバー、 第1回先進プロジェクト選考会議への参加機関の決定 メンター候補者の選定
11月下旬	IoTプロジェクト、公募開始
12月	第1回マッチングイベント開催
<b>1月</b>	<b>第1回先進プロジェクト選考会議開催</b>
<b>2月</b>	<b>採択</b> →資金支援、規制等の支援へ

### 2～3月

#### 第2回支援委員会開催

- － 個別プロジェクトの採択状況
- － その他スキーム等についての議論 など

### バッチ②

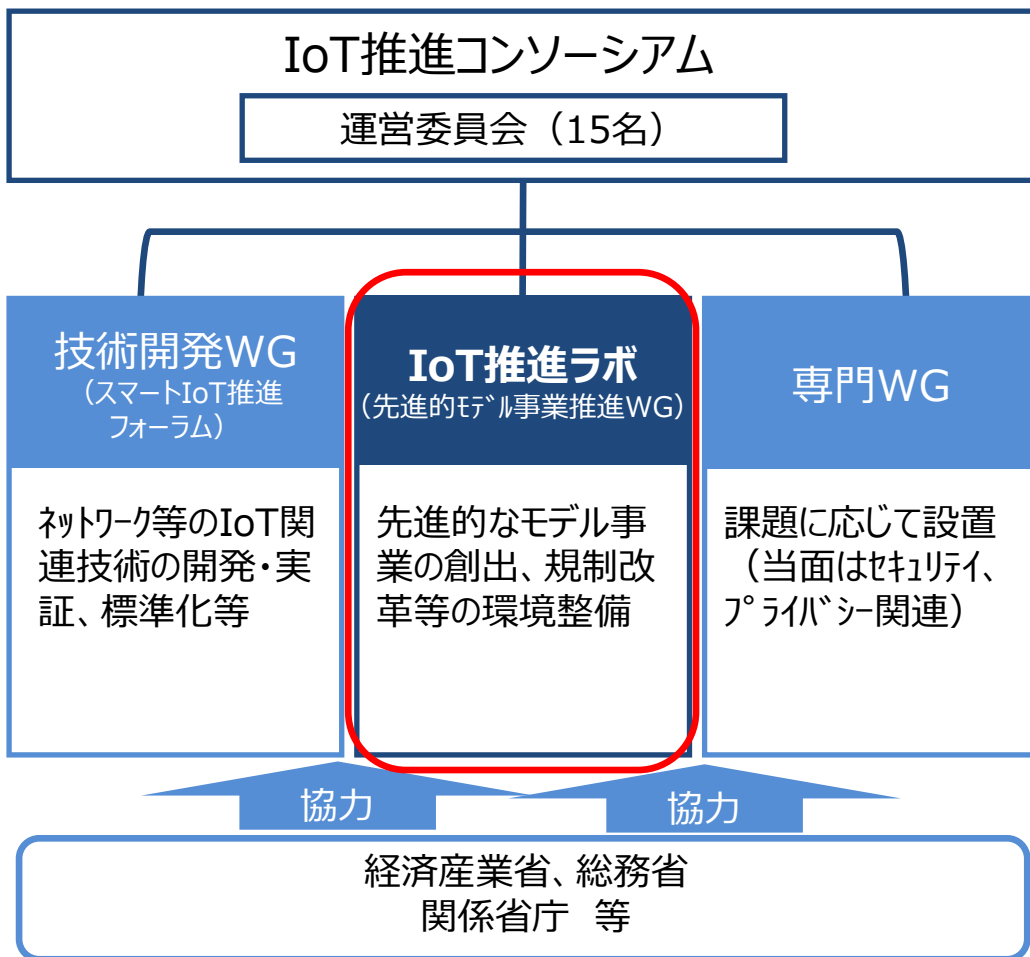
2月	第2回先進プロジェクト選考会議参加機関の決定 メンター候補者の選定
3月	IoTプロジェクト、公募開始
4月	第2回マッチングイベント開催
<b>5月</b>	<b>第2回先進プロジェクト選考会議開催</b>
<b>5月</b>	<b>採択</b> →資金支援、規制等の支援へ

### 5月

#### 第3回支援委員会開催

# IoT推進ラボの概要①～2つのミッション

- IoTを活用した先進的プロジェクトを創出するための産官学の枠組みとして、IoT推進コンソーシアムの下に「IoT推進ラボ」を設立。



参加企業 785社  
参加団体等 139組織（10月29日現在）

## IoT推進ラボの2つのミッション

- ① 先進的プロジェクトの創出とIoTプラットフォームの発掘・育成
- ② 先進的プロジェクトの社会実装に向けた規制緩和を軸とする環境整備

<テーマ（案）>

製造分野 （※）	モビリティ	医療・健康	公共インフラ ・建設	エネルギー
農業	物流・流通	行政	産業保安	教育 サービス
金融 （※※）	スマート ハウス	観光		

※ロボット革命イニシアティブ協議会と緊密に連携

※※FinTech研究会と緊密に連携

# IoT推進ラボの概要②～ラボ3原則と機能

## ● IoT推進ラボは、

- ラボ3原則（案）に基づき個別のIoTプロジェクトを発掘・選定し、資金・規制の両面から徹底的に支援するとともに、
- 大規模社会実装に向けた規制改革・制度形成等の環境整備を行う。

## IoT支援委員会

…各IoTプロジェクトに対するアドバイス、規制・制度に関する政府提言 等

## 具体的なIoTプロジェクトの創出

### プロジェクト選定の軸

下記要素を有するプロジェクトを優先的に選定・支援

### ラボ3原則（案）

成長性・先導性

波及性（オープン性）

①成果物のオープン性（標準化・社会実装化）  
or ②参加企業のオープン性

社会性（社会課題の解決）

### 支援内容

企業連携を促進し資金・規制両面から集中支援

#### 企業連携支援

業種・企業規模・国内外の垣根を越えた企業連携、プロジェクト組成を促進する場（マッチング等）の提供

#### 資金支援

プロジェクトの性質に応じた官民合同の資金支援  
➢ 事業化に向けた先進的な短期個別プロジェクト  
➢ 社会実装に向けた中期的実証プロジェクト など

#### 規制改革支援

プロジェクトの社会実装に向けて、事業展開の妨げとなる規制の緩和、新たなルール形成等を実施

## 第一回 IoT 推進ラボ・支援委員会への提出意見

一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会 会長  
仮屋 蘭 聡一

IoT プロジェクトを効果的に選定・支援していくためには、下記が重要と考える。

1. 時間軸を大事にするべき

- 短期的プロジェクトと中期的プロジェクトを分けて考えるべき。短期的プロジェクトについては、例えば選定基準として、2020 年までの実装・サービスインができる事業であることを加えて欲しい。
- 短期に関して言えば、例えば、日本として 2020 年に向けて東京をスマートシティ・コミュニティのショーケースとなり世界にプレゼンできるようにするなど観点から、目に見えて結果を出せるものを集中的に支援していくべきではないか。

2. 明確なテーマ選定をするべき

- プロジェクトを募るテーマの選定については、短期の緊急性と日本の産業競争力強化の重要性の掛け算で検討すべき。更に短・中期での実現可能性の視点も重要。この 2 × 2 の軸で考えてみてはどうか。
- ベンチャーキャピタルの投資対象として、6-tech（自動車、ホーム、金融、ヘルスケア、教育、コアテクノロジー）との整理学などがあるが、その中でも、短中期での実装の観点を重視しつつ、第一段としては、例えば 6-tech のうち 3 つほどテーマを選定し、実現可能性の高いものを選定していくほうがいいのではないか。

NexGen IoT Acceleration Lab  
(Advance Project Acceleration WG)  
IoT Support Committee (First Meeting)

## Agenda

- Date           7 : 30~9 : 15   Friday October 27<sup>th</sup>, 2015
- Location       Ministry of Economy, Trade and Industry  
Main Building 17F 1~3 Shared Conference Room
- Proceedings   •NexGen IoT Acceleration Lab Memorandum and  
disclosure of conferences  
•NexGen IoT Acceleration Lab Action Plan  
•Matching and Support Schemes

### 【Handouts】

- Material# 1   Member List
- Material# 2   NexGen IoT Acceleration Lab Memorandum  
(Draft)
- Material# 3   Regarding disclosure of conferences (Draft)
- Material# 4   NexGen IoT Acceleration Lab Action Plan
- Material# 5   Matching and Support Schmes
- Reference Material#1   Submission by Mr. Kariyazono  
(Japanese only)
- Reference Material#2   Business Case Examples   Utilizing IoT,  
Bigdata and AI

NextGen IoT Acceleration Lab IoT Support Committee Member

<Chairman>

Kazuhiko Toyama Representative Director and CEO,  
Industrial Growth Platform, Inc.

<Member>

Fujiyo Ishiguro President and CEO, Netyear Group Corp.,  
Netyear Group Corporation

Hiroaki Nakanishi Chairman & CEO, Hitachi, Ltd.

Dr. Jun Murai Dean/Professor, Faculty of Environment and  
Information Studies, Keio University

Junichi Tsujii Director, Artificial Intelligence Research Center

Dr. Kerstin Geiger Senior Vice President, Industry Value Engineering,  
SAP Asia Pacific Japan

Makoto Takahashi Senior Managing Executive Officer, Representative Director,  
KDDI CORPORATION

Marco Annunziata Marco Annunziata, General Electric

Masaaki Tanaka Senior Advisor, The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ, Ltd.

Paul Daugherty Chief Technology Officer, Accenture

Peter Fitzgerald Japan Managing Director, Google Inc.

Shinichi Koide Executive Vice President, salesforce.com, inc.

Chairman and CEO, salesforce.com Co., Ltd.

Soichi Kariyazono Chairman, Japan Venture Capital Association

Tadao Nagasaki Representative Director and President,  
Amazon Data Services Japan K.K.

Taizo Son President & CEO, Mistletoe, Inc.

Takayuki Hashimoto Vice Chairman, IBM Japan, Ltd.

Takeshi Natsuno Guest Professor, Graduate School of Media and Governance,  
Keio University

Taro Shimada Senior Executive Operating Officer & Division lead,  
Digital Factory / Process Ind. & Drives Division, Siemens K.K.



Tatsuya Harada	Professor, School of Information Science and Technology, The University of Tokyo
Tony Blevins	Vice President, Apple Inc.
Tsuyoshi Abe	Director & Senior Executive Officer, Vice president, General Manager of Technology & Manufacturing Group Japan, Intel K.K.
Dr. Udo Wolz	President and Representative Director, Bosch Corporation
Wayoh(Kazuhiro) Suzuki	Managing Director, Cisco Consulting Services, Strategic Business Development and IoE Innovation Center Tokyo, Cisco Systems G.K.
Yasufumi Kanemaru	Chief Exective Officer, Future Architect, Inc.
Yasuyuki Higuchi	Chairperson, Microsoft Japan Co., Ltd.

This memorandum in English is a translation from Japanese and is legally non-binding. Only the memorandum in Japanese is legally binding.

Advanced Project Acceleration Working Group (NexGen IoT Acceleration Lab)  
Memorandum

(Name)

Article 1 The name of this consortium shall be "IoT Acceleration lab", hereinafter referred to as "Lab".

(Purpose)

Article 2. Based on the fact that the industrial and social structure is in major transformation in globally in every field by the development of technologies such as IoT · Big data (BD) · Artificial Intelligence (AI), the purpose of this Lab is to challenge the change of a new era together with industry, academia and government with activities such as promoting the creation of new business model utilizing IoT.

(Business)

Article 3. The Lab makes the following business in order to achieve the purposes set force in the preceding paragraph,.

- 1 Promotion of matching and development of network among members to create various projects concerning IoT · BD · AI, etc
- 2 Offering advises on various projects related to IoT ·BD· AI, etc. and proposal of regulatory reform, etc. that is required to implement this project
- 3 Supporting procedures related to financial support and regulatory reform, in cooperation with private and public support agencies and government agencies on various projects related to IoT ·BD· AI, etc..
- 4 Business necessary to achieve the purpose of the Lab

(Membership)

Article 4. Membership shall be given to members of the IoT Acceleration Consortium who support the purpose and the business of the Lab.

(Fee)

Article 5. Membership fee of the Lab will follow Article 6 of the IoT Acceleration Consortium Memorandum.

(Chairperson)

Article 6. The Lab shall have a Chairperson.

2 The Chairperson, on behalf of the Lab, shall recapitulate the business.

3 A member of IoT Support Committee whom appointed by the Chairperson, shall be acting on behalf of chairperson at the time of absence.

(Term)

Article 7. The term of the chairperson shall be two years in principle. However, it is possible to be reappointed.

(Remuneration)

Article 8. The chairperson shall receive no remuneration.

(IoT Support Committee)

Article 9. IoT Support Committee hereinafter referred to as "Committee ", shall be established in the Lab.

2 The Committee is composed of a member who has knowledge of IoT · BD · AI and is commissioned by the Chairperson.

3 The Committee gives advises on various projects related to IoT ·BD· AI, etc. and coordinate recommendations of regulatory reform, etc. which is required to implement the project.

4 The Committee will be effective with attendance of majority members (including proxy and substitute).

5 The Committee proceedings shall be decided with a consent of majority attendees (including proxy and substitute), in the case of a tie, the chairperson shall decide.

6 The Committee shall be convened by the Chairperson or the Committee member whom appointed by the Chairperson, and shall be presided by the Chairperson or the Committee member whom appointed by the Chairperson. If necessary, it can be held in writing or by e-mail.

(Sub Committee)

Article 10. Based on the decision by the Committee, it is possible to establish subcommittee.

(Attribution of intellectual property)

Article 11. Intellectual properties related to various projects related to IoT ·BD ·AI, etc. which the Lab has made the adjustment and matching with support agencies, belong to the enterprise responsible for the project.

(Secretariat)

Article 12. General affairs of the Lab is performed by JIPDEC.

Article 13. Others to the provisions of this memorandum, matters necessary for the operation of IoT Acceleration lab, shall be prescribed by the Committee.

Bylaw This memorandum shall come into force from October 30th, 2015.

## Regarding disclosure of conferences (Draft)

Handling of NexGen IoT Acceleration Lab (Advanced Project Acceleration Working Group) IoT Support Committee proceedings is as follows

1. This committee is open only to NexGen IoT Acceleration Lab member hereafter refer to as “member”, in principle.
2. Handouts will be published only to the member in principle.
3. Proceedings summary shall be created within one week of the conference in principle, and will be published only to the member.
4. Minutes shall be created within one month of the conference in principle, and will be published only to the member.
5. Members shall not share the contents of the proceedings, handouts, proceedings summary and minutes to non-member without the consent of the Chairperson.
6. Depending on the individual circumstances, the decision regarding disclosure of the conference or materials and other matter shall be entrusted to the Chairperson.

# **NexGen IoT Acceleration Lab Action Plan**

**October 30, 2015**

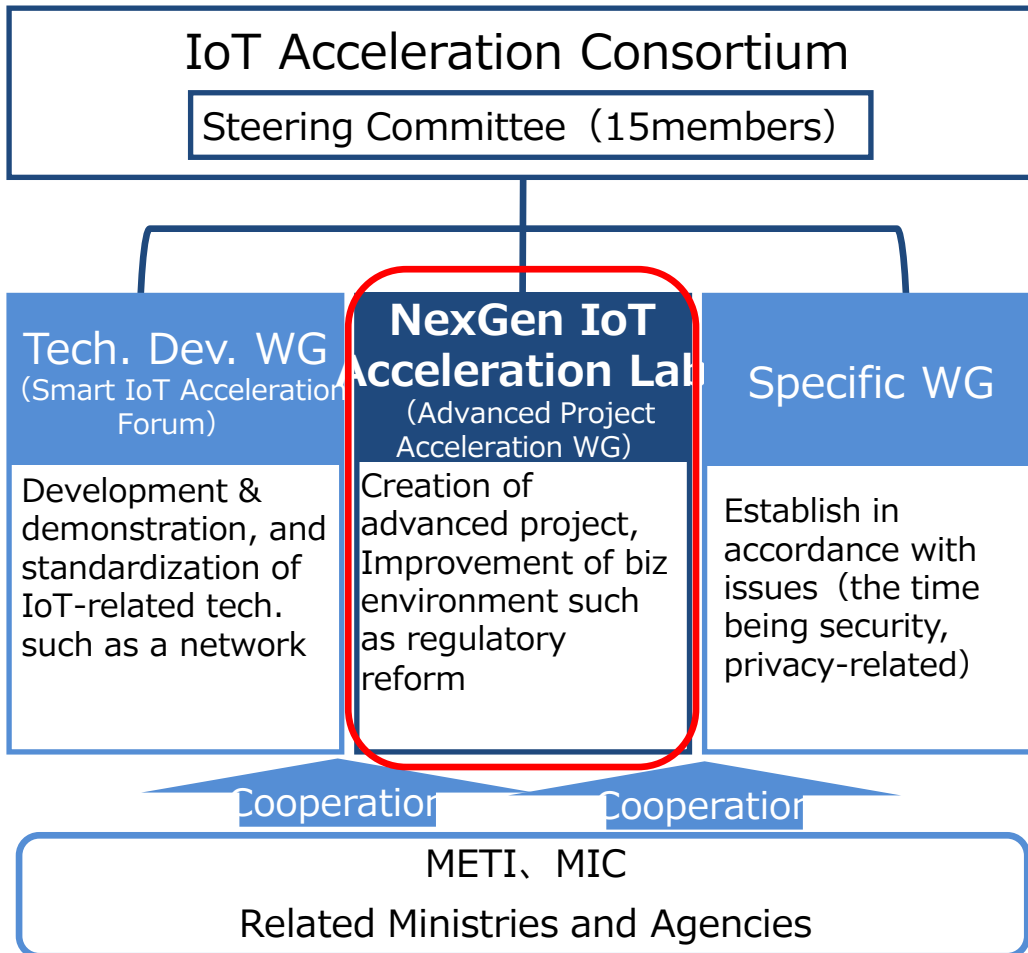
**IoT Acceleration Consortium**

**NexGen IoT Acceleration Lab Secretariat**

**(Advanced Project Acceleration WG Secretariat)**

# Overview of IoT Acceleration Lab①~2 missions

- As a framework of Industry, government and Academia to create advanced projects utilizing IoT, NexGen **IoT Acceleration Lab** is established under IoT Acceleration Consortium.



Participating Companies 785  
Participating Association 139 (at Oct. 29)

## 2 Missions of NexGen IoT Acceleration Lab

- Creation of Advanced Projects & Incubation of IoT Platformer
- Environmental Improvement for social implementation of the advanced projects. EX. deregulation

<Topics (Draft) >

Manufacturing (※)	Mobility	Medical Health	Public Infra. Construction	Energy
Agriculture	Logistics	Administration	Industrial Safety	Educational Services
Financial (※※)	Smart House	Tourism		

※Work closely with Robot Revolution initiative

※※Work closely with Study Group on FinTech

# Overview of IoT Acceleration Lab ②~3 Principles & Functions

● NexGen IoT Acceleration Lab will

- scout and select individual IoT Project based on the 3 Principles (Draft), fully support from financial and regulatory standpoints
- improve business environment such as regulatory reform and system formation for large scale social implementation

IoT Support Committee

…Give advices to IoT projects

Proposal to the government related to regulation and system etc.

## Creation of specific IoT project

### Selection Criteria

Select projects preferentially accordance with the following elements

#### 3 Principles (Draft)

**Growth Potential**

**Openness**

① Openness of Achievement  
(standardization, social implementation)

Or ② Openness of participants

**Sociality** (Resolution of social issues)



### Support Menu

Promote corporate cooperation and intensive support from financial and regulatory standpoints

#### Corporate Cooperation support

Corporate cooperation beyond the boundaries of industries, size, and nationalities  
Provide a place (matching, etc.) to promote project generation

#### Financial Support

Financial support by public-private joint depending on the nature of the project

- Advanced short-term projects towards commercialization
- Medium-term demonstration projects aimed at social implementation etc.

#### Regulatory reform support

Deregulation and creation of new rules  
necessary for projects' social implementation



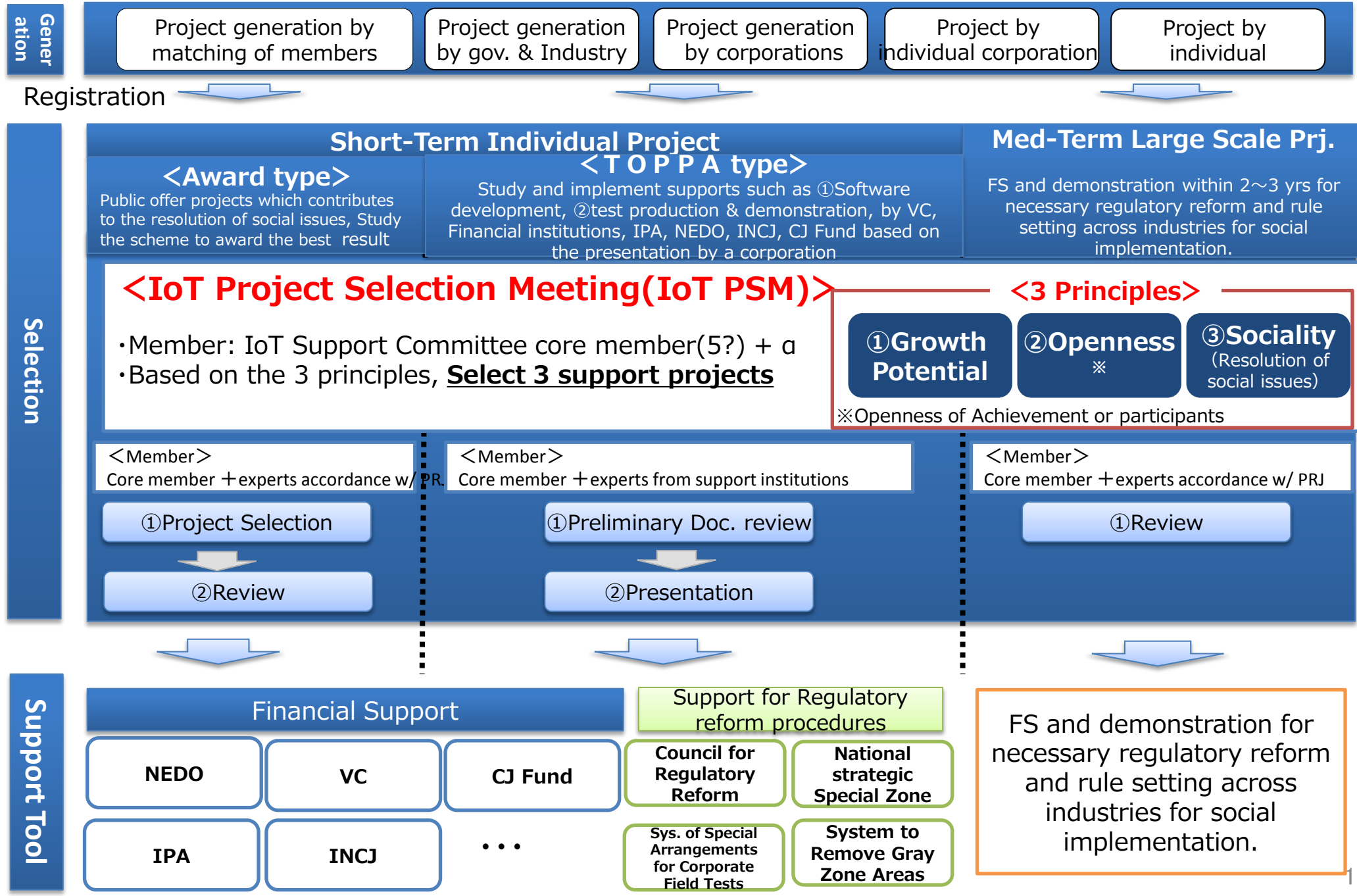
# **Matching and Support Schemes**

**October 30<sup>th</sup>, 2015**

**Commerce and Information Policy Bureau**

**Ministry of Economy, Trade and Industry**

# Overall Picture of NexGen IoT Acceleration Lab scheme



# Future Schedule (Proposal)

Batch ①

Mid Nov. Decision on IoT PSM core member, 1<sup>st</sup> IoT PSM participants  
Selection of mentor candidates  
Late Nov. Start of Public Offering of IoT Project  
Dec. 1<sup>st</sup> Matching Event  
**Jan. 1<sup>st</sup> IoT PSM**  
**Feb. Adoption** → Financial Support, regulatory support

**Feb.~Mar. 2<sup>nd</sup> Support Committee**  
– Adoption of individual Project  
– Discussion on the scheme and others, etc.

Batch ②

Feb. Selection of 2<sup>nd</sup> IoT PSM Participants, Mentor candidates  
Mar. Start of Public Offering of IoT Project  
Apr. 2<sup>nd</sup> Matching Event  
**May. 2<sup>nd</sup> IoT PSM**  
**May. Adoption** → Financial Support, regulatory support

**May 3<sup>rd</sup> Support Committee**